



碧南ロータリークラブ週報

第2550回例会 平成23年6月8日(水)

● 会長 奥田 雪雄 ● 幹事 新美 宗和 ● 会場監督 (SAA) 伊藤 正幸

2010-2011年度 国際ロータリーのテーマ

- 例会日 毎週水曜日 12:30
- 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90
TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100
ホームページ: [http:// www.hekinan-rc.jp/](http://www.hekinan-rc.jp/)
E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 会報委員 新美雅浩・鈴木健三・西脇博正・菅原 優



● 齊 唱

ロータリーソング「我等の生業」

● 本日のメニュー

和風弁当 大正館



奥田雪雄会長

会 長 挨 拶

皆様御存知のとおり、六月を陰月で「水無月」と申しますが、「無」は無いのではなく、〈の〉の意で「水の月」なのだそうです。「田に水を引く必要のある月」だと字典には載っています。

「私の半生は泥水です。あちらに流され、こちらに漂い、悪臭を放つ腐敗した水となりました。しかし土に沈んで伏流水となってからは、土に濾過されて、有難いことに清らかな水となって、再び地表に流れるようになりました。愚かでも人さまにお役に立たさせていただきます。水のように素直に生きたい・・・」と、女優の浪花千栄子さんは、自叙伝「水のように」のなかで仰っています。

私どもロータリアンは他人を思いやる心一恕一をもって人様にお役に立ちたいと思っております。

皆がこの「恕」の心を持てば、人々には、にこやかに、健やかに、安心安全な社会を手に入れることができると思います。

私ども棚尾地区の「まちづくり委員会」も加藤良邦くん、長田豊治くんのご指導を受けながら思いやりの心をもって「幸せ発信」をスローガンとし、安心安全な町づくりをめざし企画、計画致しております。

思いやりの心をもって、地域の皆様方が幸せに暮らせるように、碧南市民の方々が幸せに過ごせるように、碧南市全体が幸せな市になりますよう、心をこめて、願いをこめて、さらに「町づくり」に励んでまいりたいと思っております。応援のほどよろしく願ひ致します。

幹 事 報 告

・第12回理事会報告等は別紙幹事報告の通りです。



新美宗和幹事

委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数71名(内出席免除者16名の内出席者11名)出席者56名	
出席対象者 56/64名	出席率 87.50%
欠席者15名(病欠者2名)	前々回修正出席率 100%

〈ニコボックス委員会〉

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

- 植松 敏樹君 皆様の浄財で成り立っております、日本赤十字社の愛知県の病院、血液センターなどの施設の監査がすべて終了しました。ありがとうございました。
- 角谷 信二君 } 6月5日に碧南市消防団ポンプ操法大会が無事に終了いたしました。
杉浦 栄次君 } 会長始め多くの皆様にご参加、応援頂きありがとうございました。
- 山中 寛紀君 所用にて先日、理事会欠席致しましたが、この1年奥田会長にご協力出来ることも大変少なく心苦しい限りですが、ニコボックスだけは自分なりに協力したつもりです。
- 黒田 泰弘君 山中寛紀さんには心より感謝申し上げます。
- 大竹 密貴君 新美宗和さん、先日はたいへんお世話になりました。どうもありがとうございました。
- 林 俊行君 本日、卓話をやらせて頂きます。機会を頂きありがとうございます。つたない話で恐縮ですが、何卒よろしく願います。
- 寺尾 政記君 本日、卓話をさせて頂きます。宜しく願います。

卓話

「私の履歴書」 新入会員 林 俊行君

今回は卓話ということで、このような貴重なお時間をいただき、誠にありがとうございます。

碧南RCに入会させて頂いてから、約1年が経とうとしていますが、この間会員の皆様方には大変お世話になり、改めて感謝申し上げます。

さて、私のような凡人の生い立ちでは特筆することもなく、また人としても経営者としてもまだまだ勉強中の身でありますので、諸先輩方を前に大変僭越ではありますが、過去私が周囲の方々から学んだ事をお話させていただこうと思います。

私は実は名古屋生まれの名古屋育ちですが、学生時代に4年間だけ東京人でありました。何を間違えたか16世紀のフランス文学を専攻しておりましたが、今ではすっかり忘れてしまいました。

しかし、唯一覚えているフランス語があります。それはフランスの偉大な歌手エディット・ピアフの曲で日本では越路吹雪がカバーしていた“Sans toi ma mie”という歌の歌詞です。なぜ歌の歌詞は覚えていたのか？ですが、当時は貧乏学生でいつも仲間と遊びに行く時はゼミの先生の行きつけの Snackbar で先生のボトルを飲み、延々カラオケを歌っていたからです。カラオケとは不思議なもので皆が大いに盛り上がり、歌が下手くそでも大喝采を浴びることができ自分は歌の才能があるのだろうかと思いついたのは私だけでしょうか？

しかしカラオケは皆をハッピーにしてコミュニケーションを図るには最適な手段であり、社会に出てもフランス文学以上に役立つものだということが分かりました。最近ではあまり歌わなくなりましたが、当RCには、このカラオケを生業にされている方がおられると知って大変素晴らしい方だと思いました。と思いきやよくよく聞いてみると実はガスの販売をされておられるとの事・・・大変失礼をいたしました。

卒業後、地元のトヨタ自動車殿へ入社させて頂き新入社員の時に3ヶ月間の工場実習を経



林 俊行君

験させていただきました。配属先は元町工場の総組立部HN532組で、当時はマークⅡという車を製造していました。私は後儀装という工程でマフラーやガソリントankの取り付けをやっていましたが、ある日何故かエンジンとガソリントankをつなぐフューエルチューブの結合部の締め付けを忘れて後工程へ流してしまいました。しばらくしてラインが止まりホッとしていると後工程の職制の方々と私の上司が飛んできました。「おまえは元町工場を燃やす気か！！」と怒鳴られましたが、締め付け忘れが元で検査工程でエンジンをかけた瞬間、ガソリンが飛び散った訳であります。ここで初めてラインが止まった理由に気付いたわけですが、その後一人残って何十台もの完成車の下へもぐってフューエルチューブの確認をしたことは言うまでもありません。「品質」というのはいかに重要なものであるかを学びました。

その後の正式な配属先は「経理部」でありました。月次決算中にどうしても内容のわからない伝票があったため電話にて担当部署の田原工場・工務部の係長さんへ電話にて問い合わせをしました。「本社・経理部の林と申しますが、すいませんが、××の伝票内容を教えていただけませんか？」「なに～！？こっちは忙しいんだ。そんな事を電話で聞いてくるな！知りたかったら今すぐ来い！！」「今すぐですか？今からだと車で2時間くらいかかりますが・・・」「へりに乗って30分で来い！」当時は元町工場から田原工場にはヘリコプターが飛んでおり15分で両工場を結んでいました。私はとにかく月次処理を終えるため、即刻予約をしてへりに乗り込み田原工場へ飛びました。どんなに怖いヤクザみたいな人が出てくるのだろうかと恐る恐る工務部の扉を叩いてその係長さんにお会いすると、「遠くからよく来たな。ま、お茶と菓子でも食べていけ。」ともてなしていただき、その後、懇切丁寧に製造現場を案内していただき伝票の内容をしっかりと理解することができました。まさに「人情」と「現地現物」を身をもって教えていただきました。当RCにもトヨタ自動車の方がいらっしゃいますが、大変賢明かつ紳士的な方でホッとしております。

8年間お世話になりましたトヨタ自動車殿を退職し、平成4年4月に現在の中庸スプリングに入社しました。その後も最大のお取引先であるトヨタ自動車殿の皆様には大変ご厄介になり、今でもいろいろな面でご指導を頂いております。

もう10年前のことですが我々若手の経営者と当時の奥田会長と懇談会をしていただけることになりました。我々は一体何を話したらよいか1週間かけて皆で質問事項を考えました。そして懇談会当日、我々の代表者がまず最初に口火を切りました。「奥田会長はいつも何を食べているんですか？」なんと単純明快で分かりやすい質問だったことか。。。すると奥田会長は「時間がない時などは豊田インターの近くの吉野家でよく食べるよ。」我々は一瞬、黒塗りのセンチュリーが吉野家の前にドンと止まって、黒服のSPが店の周りを取り囲んでいる異様な光景を想像してしまっただけであります。しかしながら、我々のくだらない質問にも耳を傾け丁寧に答えいただいた真摯な態度と目線を合わせていただいたことに一同ひどく感動し、経営者として多くを学んだことは言うまでもありません。

またこんな事もありました。張会長が副社長時代に産業車両部門をご担当されていた際、新型のフォークリフトの発表会がフォレストヒルズという展示会場にてありました。当日、張副社長は展示会場の入口に立たれて来訪者の一人一人に丁寧に挨拶をされてみえました。私は会場へ入る際失礼かとは思いつつ、初対面であったためご挨拶と共に名刺をその場でお渡ししました。すると張副社長は「ありがとうございます。ようこそおいでいただきました。大変恐縮ですが、持ち合わせの名刺が切れてしまい申し訳ありません。」ととても丁寧な口調でおっしゃられました。

その2日後、速達で手紙が届きました。なんと張副社長からのものでした。発表会来場のお礼と名刺の件でのお詫びが書かれており、ご自身のサインと共に名刺が同封されておりました。も

ちろん想定外のことでこれ以上の感激はないというほどのインパクトがありました。こんなペイペイの人間にでも細かい心配りをしていただいたことに対して感謝するとともに、またここでも人への接し方や気配りについて学ばせていただきました。

最近ではほとんどお会いする機会がなくなりましたが、豊田社長が副社長時代に車の試乗会へご招待して下さいました。我々もサーキットにて当時の豊田副社長が運転する改造スーパラの助手席に乗せていただき激走し、その後は車談義に華が咲きました。「君達は一体どんな車に乗っているの？」と豊田副社長が尋ねられました。我々は口々にレクサス、クラウンノア、アルファード等結構売れ筋の高級車やSUVの名前をあげました。すると副社長からは、「みんな僕のテイストじゃないね。」とつたないコメント。すなわち自分の好みの味=趣味ではないということです。では副社長は日頃何に乗っているのか？答えはヴィッツだそうです。車の本当の性能はベーシックなものほど分かりやすく正しく評価できるが、コンピュータで固められた高級車では本当の良さは分からないとのこと。一同、なるほどと納得しました。

仕事も何でもそうですがやはり「基本」を忘れてはならないし、また常に「原点」に立ち返ることが大切であるということ学ばせていただきました。

いろいろお話をさせていただきましたが、固有名詞は全てオフレコにてよろしく申し上げます。そして稚拙な卓話にお付き合いいただき大変ありがとうございました。今後、更に碧南RCの皆様からも多くを学ぶことができるよう一層精進して参りたいと思います。会への貢献と言う意味ではまだまだですが、今後とも皆様に少しでも追いつけるよう努力してまいりたいと存じますのでご指導の程何卒よろしく申し上げます。

ご静聴ありがとうございました。

「私の履歴書」 新入会員 寺尾 政記君

皆さん、こんにちは。日本金属工業株式会社の寺尾政記と申します。つたない卓話ですが、最後までお付き合い下さいますよう、宜しくお願い致します。

私は、碧南ロータリークラブが国際承認された1959年（昭和34年）10月に静岡県清水市で生まれました。現在51歳、一人っ子です。尚、清水市は平成15年4月に静岡市と合併し、今は静岡市清水区となっています。



寺尾 政記君

妻が一人と、明治大学法学部在学中の娘、中央大学法学部在学中の息子の4人所帯で、自宅はリニア中央新幹線の停車地候補になっている神奈川県相模原市です。平成21年10月より単身赴任で碧南市内で暮らしておりますが、女房・子供とも一度も単身赴任先に顔を出したことはありません。と言いますか、来る気は全くないようです。

両親は健在、いずれも昭和3年生まれの83才で、現在は静岡市内に住んでおります。清水の次郎長の生家や墓が近くにあり、三保の松原もそう遠くはない場所です。一人っ子はあまやかされて育つとよく言われますが、私の場合、親の躰は厳しかったと思います。母からは「嘘はつくな。天網恢恢祖にしてみらさず。」と小学生の頃から言われ、なぜだか、今でも言われ続けています。

父は技術系のサラリーマンでしたが、転勤が多く、私も一緒に各地を転々としてまいりました。清水市での生活は3歳まででしたので、その当時の記憶は全くありません。その後、北海道札幌市へ引っ越しましたが、札幌と言いましても、家の前の道路でスキーができるような場所で、我流ですがそれなりに滑れるようにはなりました。女房や子供たちにもスキーを教えたが、女房は途中で断念、子供たちはスノーボードへと変わってしまいました。札幌では小学校4年まで生活し、その次は埼玉県鴻巣市に移りました。

小学校5・6年の時に鴻巣市で通っていた小学校の担任は、後藤先生というオバサンで、名前とその風貌から「ゴッドマザー」と呼ばれていました。そのあだ名の通り怖いというか、厳しい先生で、引叩かれたことも多々ありました。今なら「体罰」として問題になるのですが、当時としては当たり前で、そのおかげでしょうか、いろんな意味で打たれ強い自分ができあがったと思います。

鴻巣市では中学2年の1学期まで生活し、中学2年の2・3学期は埼玉県大宮市へ、中学3年のときは東京都江東区の門前仲町に移りました。

このように、小学校は2校、中学校は3校を渡り歩く結果となりました。

多くの転校を繰り返したことにより、子供ながらに自然とすぐに友達を作るテクニックを身につけることが出来るようになった一方で、親友と呼べるものは、残念ながらこの時期には出来ませんでした。この頃私には、「自分は転勤があるサラリーマンには決してならない」という強い気持ちが芽生えました。

高校は、東京都立両国高校という学校で、府立三中として創立してから100年以上の歴史を有する下町の進学校でした。卒業生には芥川龍之介、半村良などがおり、めざましテレビのニュースキャスターの大塚さんも先輩です。余談ですが、半村良のペンネームの由来は、彼がタレントで文芸作家のイーデスハンソンさんのファンだったからと言われています。（おわかりになりますか？イーデス＝良、ハンソン＝半村です）また皆さんご存知かどうかわかりませんが、「直木賞作家の石田衣良」とは3年生の時、同じクラスでした。その当時は全く目立たなかったのに、今ではテレビのクイズ番組などに出演しているのを見ると、人は変わるものだとつくづく思います。また、オウム真理教に殺害された目黒公証人役場の事務長は同級生の父親で、その同級生は今でもオウム真理教に対する訴えを続けています。

高校の時にも父親の転勤がありましたが、さすがに高校での転校については断り、当時では珍しい「単身赴任」をしてもらいました。元は男子校だったため、共学になった後も男子の人数が多く、1学年9クラスの内3クラスが男子ばかりのクラスで、私は3年間ともこの男子クラスでした。クラブ活動もせず、ひたすら勉強にあけくれた、今思えば、面白くない生活を3年間送っていました。

大学進学については、最初、高校内での選考で早稲田大学への指定校推薦を得ましたが、親から学費の安い国立大学へ進学してもらいたいと言われ、その後、筑波大学への指定校推薦枠があることを知り、早稲田を辞退し、筑波に切り替えました。しかしながら結果は、1次試験は通過したものの2次で不合格。よくよく考えてみると、仮に筑波大学に合格していても下宿生活となり、経済面での負担は同じであったわけですが…。その後、名古屋大学を受けるも、見事に不合格。推薦でどこかに進学できるという甘い考えから、私立の一般入試の願書は出しておらず、結果、願書受付が間に合い自宅から通学できる独協大学を受験し、入学しました。

しかし、この大学に入学したことで、それまでのまじめ一筋のカタワ人間だった私の生活が180度変わりました。多くの友人を得ることが出来、部活には入らず自由気ままにテニスやスキー、サーフィンなどをしていました。一般的には、大学生になれば酒も飲み、麻雀もしたりするものなのですが、私の場合、友人に酒を飲んだり麻雀をしたりする者がおらず、おのずと私も酒は飲みませんでした。

日金工に就職したきっかけですが、私がゼミ長として教授の家を訪問していた時に、偶然、日金工の採用担当者が教授の家を訪問してきて、話をしたことからです。その採用担当者も独協大学卒業生でした。その時の説明では、「新宿三井ビルの53階にあり、賞与は年間6ヶ月」ということでしたが、入社して賞与6ヶ月については騙されたことに気づきました。話がそれましたが、その時は会社名も聞いたことがなく、何ら興味はありませんでした。しかし4年生になって就職

活動を始める中、教授や先輩の立場も多少考慮し、受けるだけ受けてみるか！と考えてみたわけです。当然のことながら、日金工以外の会社も受けており、内定をもらった数社の中から私が選択したのは今はなき山一証券でした。そこに決めたのは、日金工からの結果報告がなく、不合格と判断したからです。ところが、山一証券での研修を終えて自宅に帰ったところ、日金工から採用の連絡があったことを聞かされました。何といい加減な会社だろうと思いましたが、日金工への入社に決め、絶対になりたくないと思っていたサラリーマンになったわけです。ちなみに、公務員試験には落ちました。

日金工への入社は昭和58年、その年の10月から2年間、衣浦製造所で工程業務を担当しました。独身寮に住んでいましたが、ある日、寮に住んでいた作業職の者が、交替勤務から帰ってくる23時過ぎにビールを持って私の部屋を訪れ、一緒に飲もうと言うんです。先ほどもお話ししましたとおり、酒は飲んだことがなかったため断ると、一人で飲むから話相手になってくれと言われ、話相手としての期間がしばらく続きました。そしてある日、せっかくだから自分も飲んでみよう！という気になって一口飲んでみました。そしたら何と飲めるではありませんか。それからはビール1本が2本、3本と増えていきましたがビール代は一切払ったことはありません。これをきっかけにして今では大変酒好きな人間になっています。

昭和60年10月に名古屋支店に転勤となり、パイプ販売の営業を担当しておりました。支店では1年半という短い勤務でしたが、この時支店で働いていた総務の女性とその後、遠距離恋愛の末、昭和62年12月に結婚しました。28歳の時でした。妻は、名古屋出身で、当時は覚王山に住んでいました。大のドラゴンズファンで、ファンクラブにも入り、仕事が終わるとすぐにナゴヤ球場に向かっていた。結婚した時は私が本社勤務だったことで、神奈川県にあった社宅で新婚生活が始まりましたが、その時も、一般紙の他に東京中日スポーツも取り、家には「ドアラ」のぬいぐるみが置かれていました。一般紙は当然、読売新聞ではありません。

子供たちも妻に洗脳され、二人とも「野球は中日」という状況です。私は特にどの球団のファンということはないのですが、TV中継で巨人戦など見ようものなら、家族全員から「非国民」呼ばわりをされます。

名古屋の次は東京本社でのパイプ販売の営業となり、4年3カ月の本社勤務の後、平成5年7月には大阪支店に異動し、薄板販売営業として3年4ヶ月勤務しました。

大阪時代には、阪神大震災を経験しました。借上げ社宅であったマンションの壁にはひびが入り、その修繕について自治会がもめていたのを覚えています。1軒でも反対の場合、修繕は出来ないわけですが、高齢者の方々は、これからローンを組むことが出来ないなどの理由から反対されていたようです。また、取引先の方の家は、斜面に建つ一戸建てが、倒壊せずに下の家の敷地内に建物がずり落ち、大変な目にあっていました。他人の敷地から家をどこすには解体する以外に方法がなく、家そのものは形が残っている為、半壊の認定もされずに補償もなく、解体・建直しをするために、3代ローンを組まなければならないと嘆いていました。この体験から、家を買うなら平らな土地で周りに海や川がない戸建にしようと思い、実際そうしたわけです。3月11日の東北地方の地震は阪神大震災以上の揺れであったわけですから、その凄さは良くわかります。被災された方にはご冥福をお祈りします。

平成10年4月には本社に異動し、薄板販売部に着任しました。その1年後には営業全体を管理する営業総括部に異動となり、販売管理・収益管理、与信管理などの業務に携わりました。

営業総括を3年1ヶ月経験したのち、平成12年6月に秘書となり7年3ヶ月秘書業務に携わりました。それまでは、社長が代われれば秘書も代わるものでしたが、私の場合、なぜか3人の社長に仕え、この頃、一気に髪の毛が薄くなりました。

平成19年10月に総務人事部に異動し、本社で2年、衣浦製造所で1年3ヶ月勤務しました。平

成21年9月に本社を移転し、事務所スペースを狭くしたことで、旧本社で働いていた従業員全員が新本社にはおさまらず、結果、スタッフ部門の一部を衣浦製造所に移動せざるを得なくなったのが本社と衣浦で勤務することとなった理由です。なお、平成22年10月には、コンプライアンス室長を兼務することとなり、3ヵ月間だけ従事しました。

そして今年、平成23年1月に衣浦製造所労務安全部長に就任し、この伝統ある碧南ロータリークラブの一員となった次第です。ロータリーに入会してもうすぐ4ヶ月となりますが、皆さんの和気あいあいの雰囲気の中に加えさせていただけましたことをうれしく思っています。まだまだ皆さんのご指導をお願いしなければなりません、宜しくお願い致します。

時間もまいりましたので、以上をもちまして、終わらせていただきます。とりとめのない話になってしまいましたが、ご清聴ありがとうございました。

以上

次回例会案内 平成23年6月22日（水）
最終例会 役員挨拶